

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A:十分達成できている C:やや不十分である
 B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立唐津南高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要 (関連に)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門教科に関する技術検定試験の合格率が低かった。 ・基礎学力向上のために小テストを実施したが、事前学習の習慣が身に付かなかった。 ・自転車通学時の事故が5件発生した。
------------------------	--

2 SAGASクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○農業科と家庭科を併置する専門高校として、農業と家庭の専門的な知識・技術の習得を通じて、関連産業を担うスペシャリスト(職業人)を育成する。 ○産学官との連携を図り地域貢献を実践することで、唐津に根ざした「開かれた学校づくり」を目指す。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着と学力向上を図り、確かな学力のもとに、より高い目標による進路実現を目指す。 ○元気な挨拶、礼儀作法を身に付け、優しさや思いやりの心を醸成し、将来社会人としての資質向上を目指す。 ○地域との連携を強化し、地域資源の活用や地域貢献を推進する。また、適宜情報発信を行うことで、地域に根ざした信頼される学校づくりを目指す。 ○成果の見える化を行い、次の取組への意欲増進を図る。 ○働き方改革を推進し、ウェルビーイングな職場環境を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ○農業や食品、生活に関する産業(しごと)に興味や関心があるひと(進路意欲) ○農業や食品、生活に関する課題に興味や関心があるひと(学習意欲) ○地域の発展や活性化に貢献したいひと(地域貢献) ○地域との交流に積極的に参加したいひと(コミュニケーション力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験から学ぶ体験型学習による専門教育の充実 ○農業科と家庭科の横断的な学びの導入(生物活用、課題研究など) ○産学官と連携した探究学習(課題研究)を通じた地域課題の解決 ○関連産業の魅力を理解するための多様な外部講師授業の充実 ○地域社会とのつながりを深める交流事業の導入(販売会、農業セミナー、保育交流など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的な知識・技術を通じて、社会の変化に柔軟に対応し、社会を生き抜く力を育成する。 ○自他を認め、協働して課題解決を目指すことのできる人材を育成する。 ○関連産業を担うスペシャリストとして、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。 ○産学官との連携を通じた地域とのつながりにより、地域を支える 		

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			
				評価	意見や提言					
●学力の向上	○専門的な知識・技術の向上	○卒業までに3級以上の資格を3つ以上取得した生徒95%以上 ○日本農業技術検定3級の合格者70%以上 ○家庭科(被服製作・食物調理)技術検定の合格者100%	・資格取得の重要性を意識付けし、自主的に取得に向けた努力を促す。 ・専門教科に関する資格については、専門知識及び技術取得の目標に位置付け、重点的に指導を行う。	B	○3級以上の資格複数取得率は次のような状況である。3年生:83.5%、2年生:55.1%、1年生:0%(9月末) ○日本農業技術検定の合格者は52.6%で、目標に届かなかった。 ○家庭科技術検定の3級は100%合格を達成し、食物調理1級も97.5%の合格率であった。	A	○3級以上の資格複数取得者は、3年生は83.5%で中間時と変更したが、1,2年生は74.6%及び32.5%で順調な伸びを示している。 ○日本農業技術検定は71.8%と目標を達成しただけでなく、2級合格者も1名出た。 ○家庭科技術検定の100%達成だけでなく、保育技術も100%の合格率を達成した。	A	○1,2年生の資格取得が向上してよい。 ○3級以上の資格複数取得者は、目標値に届いていないものの、3年生で8割をこえており、農業技術検定や家庭科技術検定は目標を達成しており、十分な成果になっていると思われる。	教務部 各学年主任 各学科主任 進路指導部
	○基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	○朝の小テスト(国語・英語・数学)の平均点が80点以上 ○「朝の小テストが学力向上につながった」と答えた生徒80%以上、教職員70%以上	・事前指導で実施するテスト範囲の宿題を確実に、家庭学習を習慣化させる。 ○「朝の小テストが学力向上につながった」と答えた生徒80%以上、教職員70%以上	A	○小テストの平均点は81.2。学校全体で小テスト前の自宅学習が浸透しつつある。 ○「朝の小テストが学力向上につながった」と思う生徒が92.9%となった。昨年と比較しても基礎学力を身につけるために、小テストに力を入れる生徒が増えている。	B	○小テストの最終平均点は81.2点となり、目標を達成した。 ○「朝の小テストが学力向上につながった」と答えた生徒が85%、教員は70%と目標はクリアしたが、事前の指導方法の改善が必要だという意見が多い。	A	○平均点は変わらず8割を超えており、目標値を達成している。 ○事前指導方法の改善が必要であるとの意見が多いとのことだが、目標は達成できているので、今後さらに数値が上がることを期待したい。	教務部 各学年主任 各学科主任 進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「地域貢献活動等を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けた」と答えた生徒80%以上	・地域清掃活動や地域貢献活動を通して、思いやりや社会性を育成する。	A	○「思う」と回答した生徒が55.7%、「やや思う」と回答した生徒が36.9%と合わせて92.6%となった。農業クラブや家庭クラブの活動を中心に、地域とのつながりを強く感じている。	B	○「豊かな心を身に付けた」と答えた生徒は96.0%と高かったが、教員は81.0%に留まった。教員の中で、ボランティアの取り組みがマンネリ化している面も見受けられた。	B	○教員がマンネリ化を感じている場合、生徒はそれ以上であることが想定される。ボランティアがメリットあるものにしてほしい。 ○地域との繋がりができていることはとても良いと感じる。ボランティアの取り組みがマンネリ化している面はあるかもしれないが、継続できているという面もあると考える。	生徒会 農業クラブ 家庭クラブ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数0件 ○「学校はいじめの撲滅や生徒の悩みに対応したり、命の大切さを学ぶ教育をしていると思う」と答えた生徒85%以上	・いじめに関するアンケートを年間に2回実施する。 ・いじめの覚知後は迅速に事実確認を行い、対策委員会を開催して組織的に対応する。	A	○いじめの認知件数は3件であるが、同一人物によるものである。1学期末に実施したアンケートでもいじめに関する事案はなかった。	A	○いじめの認知件数は3件であった。1,2学期に実施したアンケートでは、新たないじめ事案は報告されなかった。しかし、人間関係のトラブルは多く、担任等による早期対応に努めている。	A	○認知件数が少なく、よく対応されている。 ○重大事案は0件であったが、認知件数が3件あるので、それが重大事案に発展しないように引き続き早期対応に努めていただきたい。	生徒指導部 各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・保健日より毎月発行し、健康づくりの基本として正しい食習慣を意識づける。	B	○「思う」と回答した生徒が49.5%、「やや思う」と回答した生徒が32.8%と合わせて82.3%となった。農業や家庭を学ぶ生徒としては、もう少し向上してほしい。	A	○「健康に良い食事をしている」生徒は84%と微増した。文化祭での保健委員の「おにぎりコンテスト」の実施も啓発につながった。 ○保健日より毎月発行したことで、健康教育に取り組んでいると答えた生徒も94%いた。	A	○食に関する学校としてよい活動ができている。 ○他の学校にない特色である農業や家庭科の選考があるため、非常に高い結果につながっていると思われるので、もっと目標が高くてよいかもしれない。	保健部
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・定期的に自転車点検を実施し、自転車の整備状況を指導する。 ・交通安全講話を実施し、交通安全ルールの規範意識を向上させる。	A	○昨年は自転車による自損事故で3名がケガをし、車の接触事故も2件発生した。今年度はまだ事故は発生していない。 ○唐津警察署に依頼して、交通安全講話を11月25日実施する予定である。	A	○路面凍結によるバイク転倒事故が発生したが、スピードを抑えていたためケガはなかった。 ○予定通り、唐津警察署による交通安全講話を実施した。講話では動画も視聴させていただき、事故の悲惨さを実感できる内容であった。	A	○交通事故は自分が気を付けていても、もらい事故等もあるため、講話や動画視聴は効果的だと思う。 ○自転車やバイクなど、加害者にも被害者にも成り得るため、引き続き啓発を行い、今年度同様に進めていきたい。	生徒指導部 各学年主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定し、呼びかけを行う。 ・部活動休業日を設定し、呼びかけを行う。 ・衛生委員会で年次取得のための環境づくりを議題として協議する。	A	○職員の年次休暇の取得日数平均は8.3日であった。すでに14日以上取得されている職員も6名いる。年次休暇の取りやすい職場づくりができていると感じている。	A	○年次休暇取得が5日未満の職員は2名いたが、部活動等の大会引率の振替休日は取得していた。 ○時間外は昨年よりわずかに減少した。	B	○農業生産物の管理等は特別な業務もあると思いますが、工夫されて対応されている。 ○大変だとは思いますが、引き続き教職員の働き方改革を進めていただきたい。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の知識・技術と意識の向上	○「特別支援教育に関する知識・技術及び意識が向上した」と答えた教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・関係職員間での情報共有	A	○「特別支援教育に関する知識・技術及び意識が向上した」と回答した教員は95%であった。教育相談担当を中心に充実した研修を実施した結果であると考えている。	A	○「特別支援教育に関する知識・技術及び意識が向上した」と回答した教員は93%であった。支援が必要な生徒の情報交換は定期的に行っており、充実した教育相談体制が整っている。	A	○体制が整えられている。 ○引き続き充実した教育相談体制で対応をお願いしたい。	教育相談

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			
				評価	意見や提言					
○学校魅力化プロジェクト	○唐津に根ざした「開かれた学校づくり」	○「地域の魅力を発見し、地域に貢献したいという気持ちが高まった」と考える生徒80%以上 ○「自分の学校を中学生に進めたい」と考える生徒90%以上	・先進農家視察研修を通して連携を図る。 ・地域(幼保・小・中・関係機関等)と連携し、地域に開かれた学校づくりに取り組む。 ・課題研究発表会(一般公開)	A	○「地域の魅力を発見し、地域に貢献したいという気持ちが高まった」と考える生徒が89.6%となった。スクールミッション「産学官との連携を図り地域貢献を実践することで、唐津に根ざした「開かれた学校づくり」を目指す。」に対する成果として良い結果であると感じている。 ○「自分の学校を中学生に進めたい」と考える生徒が91.7%となった。学校に魅力を感じている割合は生徒も教員も高かった。	A	○「地域の魅力を発見し、地域に貢献したいという気持ちが高まった」と考える生徒が88.6%で、スクールミッション「産学官との連携を図り地域貢献を実践することで、唐津に根ざした「開かれた学校づくり」を目指すための方向性が正しい」と判断している。 ○「自分の学校を中学生に進めたい」と考える生徒が92.4%で、魅力化プロジェクトの効果が生徒にも浸透していると考えている。	A	○発表会に参加させてもらったが、生徒からも「知ってほしい」という気持ちが高まった。 ○課題研究発表会で発表を聞いたが、とても素晴らしいと思った。地域の課題に取り組む中で、地域の人の交流や課題解決のための試行錯誤など、生徒にとっても良い影響を与えていると感じた。	専門部 各学科主任
○学校情報の発信	○校外への情報発信に努め、開かれた学校づくりに取り組む	★県外からの入学者数1人以上	・学校だよりを年間9回発行し、随時学校HPに掲載する。 ○学校HPの「イベントギャラリー」を随時更新する。 ・学校HPの「イベントギャラリー」を随時更新する。	A	○8月1日体験入学を実施。計216名(昨年比-44)の中学生が参加であった。県外からの参加者は8名(昨年比+6)で、県内外に本校の魅力が中学生に伝わっている結果であった。	A	○学校だよりは定期的に発行することができた。 ○毎月の学校HPの更新は、平均アクセス数が400件となり、情報発信の効果が大きかった。 ○次年度の県外入学者は4名(特別選抜)。	A	○課題研究発表会に参加している中学生を見て、目標が達成していると感じた。 ○実際に県外の中学校からの入学者が来るということは、学校の特色が伝わっていることだと思う。	教務部 専門部 各学科主任
○地域産業への貢献	○地域の関連産業を担うスペシャリストを育成する	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と答えた生徒80%以上 ○県内就職率(3年生)65%以上	・唐津のローケーションを最大限活かした教育を心がける。 ・県内の企業や専門学校、大学の素晴らしさを生徒に知ってもらう取組を強化する。	A	○「思う」と回答した生徒が54.0%、「やや思う」と回答した生徒が32.4%と合わせて86.4%となった。今年度は地域を意識した課題研究に取り組んでもらっているため、その効果が表れていると感じている。 ○県内就職率は73%(10月31日現在)	A	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と答えた生徒88.0%であった。佐賀県と佐賀大学が進めるコス事業の講演も効果的であった。 ○県内就職率は79.1%に達した。 ○4年制大学が16名、短大等が10名と専門知識の深化を目指す進学が増加した。	A	○モリナガでの販売など、地域との関わりがとてもよいと感じた。 ○積極的に地域との関わりを持つことで、自分の住む地域に関心を高められていることは非常に良い取り組みであると思う。	専門部 各学科主任